

現金はお金だけじゃない

～現金取引～

講師
粕谷和生

今回からビジネスの世界に毎日出てくる典型的な取引の記帳について学びます。まずは、現金取引と当座取引です。簿記でいう現金とは何か、つまり簿記上の現金について学びます。次に、現金の帳簿上の残高と実際有高がくいちがう場合の現金過不足の記帳法について学習します。さらに、当座預金と小切手についてもマスターしましょう。

調べておこう・覚えておこう

現金／現金勘定／帳簿／残高

簿記でいう現金とは

現金といわれた場合、普通は千円札などの紙幣や100円硬貨などを思い浮かべます。しかし、簿記で現金という場合は、紙幣や硬貨のほかに、他人（ほかの会社など）が振り出した（発行した）「他人振り出しの小切手」なども含まれます。

なぜ、「他人振り出しの小切手」が簿記上の現金に含まれるのかというと、これを銀行などにもっていき、すぐに現金に換えてもらえるからです。つまり、「他人振り出しの小切手」を受け取ったということは、「現金」を受け取ったことと同じであるとみるのです。

Key Word：他人振り出しの小切手

ポイント 簿記上の現金 = 紙幣や硬貨などのお金 + 他人振り出しの小切手など。

【取引例】

売掛金¥160,000を得意先振り出し、つまり他人振り出しの小切手¥160,000で受け取った。この取引例では、他人振り出しの小切手を受け取っています。これは現金を受け取ったことと同じなので、仕訳は次のようになります。

(借) 現金 160,000 (貸) 売掛金 160,000

実際の現金が多い？少ない？

現金勘定など帳簿記録からわかる残高を「帳簿残高」といいます。また、金庫に入っているなど実際に店の中にある現金のことを「実際有高」といいます。本来、帳簿残高と実際有高は一致しますが、何らかの原因でくいちがいが生じる場合があり、これを「現金過不足」といいます。次に、現金過不足の記帳法について学びます。

【例】8月19日 現金の実際有高と帳簿残高を照合したところ、実際有高は¥50,000で、帳簿残高¥51,000より¥1,000不足していた。

現金過不足が生じた場合、帳簿残高を実際有高に合わせる（一致させる）ように仕訳します。上記の【例】では、帳簿残高が¥51,000で、実際有高は¥50,000ですから、帳簿残高を¥1,000

減少させることとなります。帳簿残高を減少させるということは、現金勘定を減少させるということです。したがって、仕訳は次のようになります。

(借) 現金過不足 1,000 (貸) 現金 1,000

借方に出てくる現金過不足勘定は、現金過不足の原因を調査中であることを示す一時的な勘定です。

Key Word : 現金過不足 / 帳簿残高 / 実際有高

ポイント 現金過不足が生じたら、帳簿残高（現金勘定の残高）を
実際有高に一致させるように仕訳する。

【例】8月19日 調査の結果、不足額のうち¥800は、交通費の記入漏れであることがわかった。

現金過不足の原因がわかったら、その金額を現金過不足勘定から原因が判明した勘定に振り替えます。上の例では、現金過不足の原因が交通費の記入漏れであることがわかったので、仕訳は次のようになります。

(借) 交通費 800 (貸) 現金過不足 800

ポイント 現金過不足の原因が判明したら、その原因が判明した勘定に
現金過不足額を振り替える。

【例】12月31日 決算になっても不足額の残高¥200については原因が判明しないので、雑損勘定に振り替えた。

(借) 雑損 200 (貸) 現金過不足 200

現金過不足に関する一連の取引を現金過不足勘定に転記すると、次のようになります。

現金過不足					
8/19	現金	1,000	8/19	交通費	800
			12/31	雑損	200

なお、実際有高が帳簿残高より多い（過剰になっている）場合に、決算になっても原因がわからないときは、雑益勘定に振り替えます。

ポイント 決算になっても現金過不足の原因が判明しないとき、不足額は
雑損勘定に振り替える 過剰額は雑益勘定に振り替える



当座預金とは

当座預金とは、小切手の振り出しなどによって、いつでも引き出しができる銀行預金です。この当座預金口座がなければ、小切手を利用することはできません。番組では、さかっち店長が実際に銀行に出向き、当座預金口座を開設してみます。

また、小切手のしくみについて、「さかっち商店が東京商店から商品¥100,000を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った」という例にそって番組の中で図解しますので、しっかり学んでください。ポイントは、小切手を振り出した人の当座預金口座から小切手の金額が支払われるので「振出人の当座預金が減少する」という点です。したがって、小切手の振出人であるさかっち商店の仕訳は次のようになります。

(借) 商 品 100,000 (貸) 当座預金 100,000

Key Word：当座預金勘定（資産の勘定）

ポイント 小切手の振り出し → 当座預金の減少

[実践簿記演習]

【取引】

8月19日 さかっち商店は、南北銀行渋谷支店に当座預金口座を開設し、現金¥200,000を預け入れた。

(借) 当座預金 200,000 (貸) 現 金 200,000

25日 さかっち商店は、東京商店から商品¥100,000を仕入れ、代金は小切手#1 ¥100,000を振り出して支払った。

(借) 商 品 100,000 (貸) 当座預金 100,000

※#1の「#」は、「ナンバー」と読みます。

小切手には1枚目から順番にナンバー（番号）を振ることになっています。

30日 さかっち商店は、大阪商店に対する売掛金¥80,000を同店振り出しの小切手で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。

(借) 当座預金 80,000 (貸) 売 掛 金 80,000



他人振り出しの小切手は現金勘定の増加として処理します。しかし、30日の取引では他人振り出しの小切手を「ただちに」当座預金に預け入れていますので、現金勘定の増加の処理を省略して当座預金勘定を増加させる処理を行います。